

# みずつき7

2018



あきやまさいと  
秋山生糸

あめのうずめ  
天野うずめ

あめふらしとしひろ  
雨虎俊寛

ありもろききよう  
有村桔梗

いくちかな  
井口可奈

えいじ  
泳二

えだまめ

えんどうけいこ

おおにしひとみ  
大西ひとみ

おおはしはると  
大橋春人

おがわまどこ  
小川窓子

おのびひかる  
小野田光

おりはらさき  
折原咲樹

かいぜん  
@kaizen\_nagoya

かざえ

かどわきあつし  
門脇篤史

かれいど  
過れ井戸

きくちひろかつ  
菊池洋勝

くどうよしお  
工藤吉生

くらはしほ  
倉橋千帆

こうよう  
河野瑤

ごてんやまみなみ  
御殿山みなみ

さいとうさと  
西藤智

さくらいとこ  
櫻井朋子

さきとにかな  
笹谷香菜

しいなゆうこ  
志稲祐子

じやつくはめ  
雀来豆

スコラブ

たえなかず

たかぎかずよし  
高木一由

たかこ  
多香子

たかはしりおこ

たむらはだか  
田村穂隆

ちこりん  
知己 凜

ちほろこはぎ  
千原こはぎ

チャリ  
chari

つきもとゆみ  
月本ゆみ

どいれいいちろう  
土井礼一郎

とうぢちひろ  
橙田千尋

なかじょうあかね  
中條茜

なかにあひ  
永田愛

なかにせいら  
中村成志

なぎさらさ

ならはらもか  
植原もか

にしじゆんこ  
西淳子

はしばみ みずほ  
榛 瑞穂

はしとてつや  
橋本哲也

はっか  
薄荷。

ふえちしづえ  
笛地静恵

ふぐるまめ  
文車雨

ふじた ひかる  
藤田 光

ふるいひさしげ  
古井久茂

ほききまどか  
穂崎円

ほんだあおい  
本田葵

まつあかたけじ  
松岡拓司

みかげことは  
深影コトハ

みみ  
杵 未

みやじまいつく  
宮嶋いつく

みやま  
深山

みゆきろくろ 毛  
幸露倉 霧

もぎのゆか  
麦野結香

めぐまる

せちづきまりは  
望月万里葉

せりかわ はると  
森川 晴

やまがみあきえ  
山上秋恵

やまかわさぐ  
山川 築

やまかわつくる  
山川 創

ゆかり  
悠佳里

よどみ ゆーこ  
淀美 佑子

リリー

ルオ

ご参加  
いただいた  
皆さま

(五十音順 敬称略)



71名による426首の「水」がテーマの合同短歌集

## ot random water

生きること説いてる人が呼吸するようにバケツへ雨を集めて  
神経の毒がいかもしれなくて洗えばいいかもしれないはずで  
南極の海の水とも似てなくてそもそも海が嫌いな私  
深呼吸すればするほど浮力って言葉のように失っていく  
水道の水で溢れてしまいそう触れれば壊れるなんて言ってよ  
沈む水沈まない水ゆるやかな幾億年の寝息とともに

天野うずめ @uzume\_no\_hijiri

## 竜の子

真夜中にウオーターリリーの群生を歩めばつま先に滲む虹  
岩肌の小さな滝にガラス瓶さらして竜の子を捕まえる  
湖の底で羊が水草を食み静かに岸に寄せてくる波  
水盤を抱えて崖の上に立ち夜明けとともに降る雨を待つ  
乳鉢の上に差し込む月明かり…水入り瑪瑙の匂い、食欲  
軒先に名のない花が紛れ込み花屋の夜はささやくばかり

秋山生糸 @kiito25

## 雨音

ポツポツとアスファルトに水玉ができ世界の色が匂いが変わる  
胸いっぱい湿った空気を吸い込んでわざとゆっくり濡れながら行く  
急いでもどうせ家には誰もいない静かな部屋がそこにあるだけ  
雨が降るサラサラと降る音だけが一人ぼっちの私に満ちる  
寂しいと思う間もなく溶かされてだあれもない世界ができた  
ただ一人待つことなんてなかったの貴方もきっと雨音の中

悠佳里 @yukari\_rito

## 雨だれ

雨だれにシヨパンの指は愛という生きる不安の先端にいる  
ビニールの傘にとどまる滴らの銀河がゆるる横断歩道  
雨だれを耳にし空を見るときのわたしは世界の画素のひとつぶ  
音ばかりする夜の雨照らし出すヘッドライトの先はグリッター  
この雨もいつか蛇口にたどり着き珈琲豆と抱きあい落ちる  
薄闇の水たまりへと落ちてゆき無数の円をえがいて消える

淀美 佑子 @yodo\_yo\_mi

## オアシス21

見下ろした水の宇宙船へ乗ろう 愚図りはじめた空模様なら  
さつきまで居たテレビ塔見上げてる 揺らめく船に今ふたりきり  
銀色の月の滴の形したベンチに座る 靴がふれあう  
願い込め川面を跳ねる石のよう 一段飛ばしに近づいてゆく  
まだ傘を差さなくていい雨のなか肩に頭をあずけてくれた  
まだ少し意気地なしか 雨宿り先にしよう観覧車見てる

雨虎俊寛 @amefurashi3107

## 雨がやむまでまっいて

ながぐつをはいているのにぬれているくつしたくるぶしなんかくるしい  
バスタブにおひぎの山が4つありごっつんこつてするときもある  
わるいことしているみたいびしょぬれの髪の毛のまんまでアイスを食べる  
カーテンのすきまがきらいまつとうに生きると雨がわたしを責める  
しぬのなら海がいいからもうすこし生きていようかうん  
晴れ女中央線に運ばれて雨はもうすぐやみそうである

リリー @s\_river\_lily1

## みずにきえれば悩まずすんだあいも知らずにすんだひと

井戸の底覗き込んで煌めいたきみと過ごした夏の残照  
海よりも深い藍色きみのいる川で濡らしたシャツの色彩  
川渡り星降る空に手を伸ばし世界が広がりがやっていた  
唐突な少女時代の幕切れは海の向こうへ行くと言うきみ  
雨でいい台風がいい何だつてきみを留めてくれと願った  
枯れた花枯れぬ古井戸背を向けて今宵の空は霧雨になる

ルオ @ruo129

## 特徴抽出

ふたりぶんのお水をあげるためだけに一番乗りで朝顔と会う  
あの日見た雲は明日の昼食で牛乳となりきみにくつつく

中止でもブルーを見つめる（見間違いない？）虹を産もうとする雨後の水  
H20のOです、月刊の少女漫画で夢見ています

真っ黒な水面に火花が映るのは君がいるから。魔法なんだよ。

重力に逆らって飛ぶみずたまを「青春」としてシャッターを切る

森川 晴 @haruto\_papurika

## 海色の便箋

魔法少女ララベルの絵の長靴が雨を楽しくしてくれたっけ

世界史の青い表紙の教科書を使っていた日の雨の藍色

雨だとは気づかなかった。夏ですね、もいちど月を蹴飛ばしてみます  
愛のない私だけどうずくまるたびに心は浄化してゆく

雨傘か日傘か迷う日々でした 日傘は影となり消えゆけり

果てしなく海色をした便箋に綴る寂しい夏休みのこと

山上秋恵 @akiemuroran

## 海抜

まひるまのフードコートに交はらぬ水平線をふたつ並べて

この夜にさびしいひとがあるやうなみづおとのするビジネスホテル  
ひとゆびつつ剥がしてゐたるみづいろに揮発してゆくころを思ふ

ふかぶかと谷折りされたわたくしをゆつくりお湯に戻してゐたり

まよなかのお湯に浸せばわたくしのどこかにしみる傷口がある

ひたひたとみづの匂ひのする夜に目をつむりゐるひとの海抜

有村桔梗 @chattenoire\_k

## のみのものがあってよかった

カルピスを飲めば魚になる身体 戻ってこなくてもいいんだよ

水面に体を打ち付けて目覚めるオレンジーナはむかしなかった

ヤクルトはみんなの希望そうやって育ってきたのつらかったでしょう  
しゅわしゅわが弱くなつてくサイダーをきみは飲まないことにしたんだ

勝ち逃げをされた気分だりんごジュース疑似恋愛を楽しみやがって

愛は重い気軽に言える好きはないだけと言わせてボカリスエット

井口可奈 @yokaikinoko

## 満ちていく

幾筋も襷を作りて広がれり坂を流れていく雨水は

傘の骨捨てられてあり水たまりにその先端を少し浸して  
いくつものつまらぬ嘘を受け止めて頭の中に水満ちていく

梅雨空にシーラカンスの降ることを夢想してゐる古書店の隅  
刑罰の長き歴史を思ひをり生ぬるき湯に髪を濡らして

罅のある洗面台に吸はれゆく粘つく口を漱ぎし水は

山川 築 @Wonderful\_Maze

## 神にはなりたくない

明日から世界が変わる翼もて昇天するまま雨を浴びたい

路地裏に数匹の猫洪水は私の意志で起こらないのに

体から滴る雨にわずかだけ涙が混ざり床に染みゆく

味がなことがわかつて飲む水のようにみんなと握手しましょう

雨を吸う雨を吐き出す私とて別に神にはなりたくないが

逆流の夢をしばらく見続けて干上がることを待っている川

山川 創 @clonecoyamato

## 霧の朝

霧が立ちあなたを遠く思う朝文字を打つ手が湖面のようだ

僕は一人たぶん北へと歩いてる振り返っても何も見えない

見えること見えないけれど想うこと電車の音が遠く聞こえる

この霧を肺深く吸い込んだからあなたは目覚めないのだろうか

耳がもう音を拾おうとはしない産毛のひとつひとつが濡れる

屈折をくり返しては白くなり言葉は淡くあなたに届く

泳二 @Ejshimada

## 不可逆的三十年

踊り場でチェリオをふたりで飲んだだけあれもデートと聞いたかった

逃げ水を知らない人が逃げ水を追い続けてる夏至のドライブ

シャワーまで私を避けはじめたみたい両手広げて少しだけ泣く  
ため息を水上置換で集めては保存しているキッチンのお棚

お風呂から心細げな「まま」の声 曇り戸越しに手と手合わせた

一身に小雨の粒を集めてはガクアジサイの散らす火花よ

えだまめ @edaname\_midori

## 恋人は絵師

空と海ばかりを描く恋人に会う日はいつも水色を着る  
きみの手をよく知っている絵筆さえうらやましいと思ってしま  
雨粒のかたちを紙にうつしとることは手間を惜しまないひと  
すぐ濁る筆洗の水替えることくらいわたしの仕事にさせて  
うつりゆく景色を察知するきみはわたしの波に気づいていない  
出来映えが気に入らなくて破かれる絵を我がことのように見ている

えんどうけいこ @clematislica

## 薄緑の記憶

ありし日を懐かしむよう水茄子にすだちの皮を刻んで散らす  
あの時の四つ葉の葉あと何度ひらくのだろう雨の頁を  
モヒートミントの香り初夏の水が溶けて薄まる記憶  
水あめが白くなるまで割り箸を回し続ける滑らかな雨  
忘れてた地名をふいに思いだすペリエをそっと持ち上げるとき  
雨やまず異国の夢をみたときの指に残ったライムの香り

大西ひとみ @hitomin\_0

## 京滋バイパス

京の果てしづしづ流れ合うふたり頬が瘦けたら滋賀のはじまり  
春雷のからだをほとばしる液は水と夜とに分かれて溜まる  
送り火を迎えるあほな古都を背にひとり比叡の夜露でええし  
ひとひらの音符が落ちた琵琶の面に五弦の絹をわたす鬼蜘蛛  
右頬が覚えてんねん九条山ふゆのレールが冷やかかってん  
水涸れの京滋バイパス黄昏れた子と子の春夏秋冬ごっこ

幸露倉 霧 @miyukilogram

## 浴室と海

月木は事故が無いよう祈りつつひとり五階の浴室へ行く  
清拭時湯温確かめ汲み上げる何か足りない四十五度は  
入浴後低いベッドで拭き上げて処置するはずが拳を受ける  
罵声だけ浴び続けるシャワー中誰も悪くはないんだ、きっと  
風呂嫌いそんな彼女を宥めつつシャワーへ持ち込む猛者に焦がれる  
帰宅後に潮の香りが押し寄せてああ私だと風呂場へ急ぐ

麦野結香 @yuka\_mikut

## 点景・木無月

大雨警報 とつくに知っているネクタイを濡らす衝動的に  
海面に霧立ち込めて攻城砲みたいに眠る豪華客船  
十七歳、傘を失くした朝焼けの見覚えのない背中はず  
ひたすらにねこのしっぽの揺れている動画とともに飲むココアラ  
根雪という言葉は持たず僕たちは小さい傘にくるまっている  
野良猫と小さな傘に遊んでいるこんな時間を愛と呼ぶべし

大橋春人 @hachidax

## プラネタリウム

星と似て星でないもの探しては波にとびこむ日焼けした少女  
少女にも波がきびしくうずまいて手足と髪はもまれるままに  
感情のない波、砂にまみれて規則正しく波はただ波  
灼熱の浜からはなれ沖に向かう。ついてくる父 足の冷たさ  
欠けたウキ越えて沖へと泳いだら浜が見えない地球は丸い  
息ためて深く潜れば太陽は月 全世界がプラネタリウム

小川窓子 @madoko\_o

## はじめての海、三回目の海、五回目の海

着いたよー ドアを開ければふうわりとしよっぱい風だ海のおいだ  
ざぶーんと波がくるくる足元にきたきた ぎゃーっ！ はじめての海  
トラクターで埋められてすぐ掘られてる砂抜き済みのハマグリたちが  
みてきれーい！すべすべのかい！みつけたよ！ ざざーんざざーん 何て言ったの？  
姉たちが拾った貝をぎゅっと持ちゆっくりにゆっくりに海を味わう  
なんでうみのみずにはしおがはいってるの？ いい質問だね(母も知らない)

めぐまる @megumaru76

## 恋忘貝

逢・いたいは少し痛みをとまなつてふる雨の日は殊更(とくに)にそう  
暗黙のルールのようにさみしいと言えぬ代わりに胃袋をつかむ  
きみの色が少し足りない いつもより部屋がひろくてどこまでも青  
重ね合った翅がさみしい抜け殻となつてしまった 恋忘貝(こいわすがい)  
足跡もつかないほどのやさしさで雨はわたしに寄り添っている  
捨てられていた訳じゃない貝殻は生きなおすために置いてきた翅

望月万里葉 @pehonaribon

## 透明な飲み物

慎ましく休憩せねば許されぬ生き物らしい公務員とは  
透明な飲み物ばかり選ばれる春のセクハラ防止委員会  
契約解除<sup>うちきり</sup>を告げにゆく日は背を伸ばし出されたお茶は決して飲まない  
イソジンを雑に含んで二時間の謝罪の苦味ごと吐き捨てる  
紫陽花のにおいぐつしより連れ帰る誰かに傘を貸してきた人  
ミルクティー飲もうよ少し胃の痛いだけど月明かりやさしい夜に

深影コトハ @cotoha\_mikage

## 六月の猫

ゆつたりと流れる日々が尊くて雨雨雨は猫と微睡む  
騒がしくやんちゃな子らがひっそりとオプシオンになつてしまふ雨の日  
ベタついて気持ち悪いね毛繕いもあるくなる子伸びて眠る子  
(寝子ですしほぼ梅雨限定なんです) 不安でそつと触れる体温  
本能の優先順位なのでしよう鳥の囀りより睡眠を  
人間と似てる寝息も気怠さも甘やかな愛放つ六月

衣未 @mini\_4567

## 柔軟剤の水

水玉がみんなに似合う街の中ふつうの女の子はどこにいる  
ペットボトルばかり売ってる自販機に描かれた瓶の冷たいコーラ  
男でしよって言われるような雲ゆきだ 水泳補習は嫌じゃなかった  
君が昨日指を浸していた水を加湿器で霧状にしてゆく  
ダウニーに浸けられているアルパカが「葛藤きらい」というから眠い  
銀雪が大つごもりに包みこむスパンコールのような罪・恥

小野田光 @hikarutanka

## 凧

海面がきらりきらりと光り呼ぶ小舟は遠い朝のベタ凧  
傘ふたつ三人で差すおんなのこ透明な音冷たい雨だね  
待ち人はいらっしやったか風吹けば潮の香りを残す街角  
外灯が煌めく川を明滅し幹線道路を過ぎ行く車  
君はもう素肌晒して歩かない雪の白さは幻想ですか  
水水飲み終えたなら店を出て土砂降りの朝に口づけしよう

折原咲樹 @paeoniacliflora

## カワコのいた里で

紫雲丸事故記念碑に涙雨カワコは「おれがおれば」とうめく  
今日もまたカワコの墓を洗う雨ほのかに胡瓜臭さをたてて  
人恋しい夜に弁天池に行く推恵神社の木彫りの竜は  
変わりゆく町を流れる朝酌川はおれの記憶の通りに流れ  
たそがれはカワコのための時間ゆえカラスと共に家に帰ろう  
川船の行き交うことのなくなった船着き場には輝く夕日

宮嶋いつく @miyazima\_izq

## 毒にも薬にも

水底に沈め沈んだこいごころとけて儚く蝕んでいた  
涼風にふわり消えてく湯気の奥泥を流してぬくぬくまるく  
映す月水面に揺れて広がった波紋とろけて猫の目きらり  
果てもなく広がる空は雨模様落ちる粒たちはじく傘の絵  
追いかける不思議な視線つきささる飛び越えた水溜まりの雫  
消え去ったはずだと思っていた恋わたしが覗く青い水底

深山 @miyama\_o

## 水が好き

雨が好き屋根の雨音聞きながらビーチボーイズかけて本読む  
海が好き山では道がなくなるが海岸線はどこまでも続く  
水素好き炭素酸素と混じってはゆうき百倍今日も生きている  
雪が好き達磨創りとかまくらとスキー場では転ぶのも好き  
酸素好き息ができると嬉しいし水素と組んで水になるらしい  
水が好きのどが渴いて水を飲むプールじゃぶかぶか浮いているだけ

@kaizen\_nagoya @kaizen\_nagoya

## 梅雨と露

体内の流れが逆流するような気持ちで目覚めている土曜日  
空っぽのケトルに水を注ぎつつゆるゆるると時計は回る  
梅雨入りの報を知らせる画面からあら懐かしい曲が聴こえる  
水槽の中の金魚と戯れるどこへも行けないままの私  
品種改良された尾びれが揺れていて私の赤いヒールと並ぶ  
透明なガラスの結露そのままにただ退屈を持て余す日々

かやえ @kazea\_es

## 悲しい雨が降る

悲しい雨が降ると歌へるKJのこゑ聴きながら湯を沸かしをり  
雨音に満ち満ちてゆく陋屋にチエルノブイリの響きはるけし  
革命を諦めたりし過激派の初老のをとこのやうに降る雨

ケトルから急須にそそぐぬくもりは覚悟不足の我をつつめり  
筆名で歌を詠みつつながらへば私の暮らしは湿り気を帯ぶ  
カーテンを開けばこも夜となる雨の気配は色を濃くして

門 脇 篤 史 @508atsu

## 昼の居酒屋

別離とかもう慣れてるし気にしない少し苦めの珈琲を飲む  
偶然の出会いがかなり嬉しくて少し冷やしたほうじ茶を飲む  
常ならば騒ぐことないハブニングなのにイジイジ梅やんで水を  
ささやかな口論をして電話切る夜中絞ったニンジンをお飲む  
この先へ足を踏み出す勇氣なく自販機でコンボタを買って  
一回り季節がめぐりあの人と再会をした昼の居酒屋

瀬 井 戸 @kareido111

## ホウオウゴケ

ミズゴケもセリもワサビもスイレンもモウセンゴケも混雑土で  
手つかずの自然公園駐車場右折してから800m  
安全のため湧水を道路脇水路へ流す工事をします  
水漏れの堤防壁のツボゴケの中から舞い飛ぶユスリカたち  
急傾斜ブドウ畑の電柵を鹿も狸も飛び越えてゆく  
雨のたび駐車場も道路も泥水に飲まれて進入禁止

古 井 久 茂 @fuldom

## その器は欠けている

海へ降る雨を日永に眺めれば火は一人称を知らないままで  
テーブルのペットボトルの紙コップななめのままに了承される  
開かれて床に散らばるとりどりの そうかおまえも hydrangea  
国会質疑書き起こしメモ読む昼休み台風の目は馬の目のように震えて  
閉架式書庫の暗さに貝殻はできそこないの虹を抱えた  
つまり陸とは海の眷属。霧雨にくりかえしくりかえし火を打つ

穂 崎 円 @golden\_wheat

## 日がな一日

薬は水で飲めと言われているが守ったことは指より少な  
呼吸器の加湿器の水取り替える母の皺にも湿り気を乞う  
痰を吸引して流す水今は水道水で許されている

病室の床に散らばる水銀に触らないでと走つて来る  
便器の水を流す手を下さるかトイレに行ける足を下さい  
水玉を日がな一日書いてても咎められない級友がいた

菊 池 洋 勝 @kikut81

## 浅い川

浅い川 底がいくらか見えていて寝苦しい夜ゆううつな朝  
オレが来たせいでやる気を完全になくした待合室の加湿器  
牛乳にひたるイチゴをスプーンの裏でつぶせばざるの赤  
いつもなら行かない道に出くわしたペットボトルに水満ちている  
安いから買ってきたのに深みあるコクやらキレを誇るコーヒー  
神田川かと思ったら梅田川あなたは忘れてオレも忘れた

工 藤 吉 生 @mk7911

## マーキュリーとは、ちょっとした知り合い

水星も海王星もその昔水がたわわに溢れていたか  
水曜日何かいいことありそうないつもと違う遠廻りして  
水商売などと宣ふ先輩は水道局に勤めてゐます  
水滴をグラスについた水滴を汗に例へし矢沢永吉  
攫はれた水蜜桃とバナナ帽知つてゐるのは檳榔樹のみ  
水飲むを禁ず昭和の愚かさを笑へるほどの平成なりや

本 田 葵 @nfyCTemoK42w8

## 哲学の林檎

星条旗柄の服着たハウンドがきれいなフォームで放尿する夜  
吊るされた鮫鱈の尾より滴々と海が落ちている魚市の隅  
いづこかで春の水門ひらかれてわれの涙の量が増えてく  
西向けばふやけたような半月が雨水をこぼしあしたは晴れる  
水溜めを見つめ動かぬヤモリいてわたしも家に帰りたくない  
もしかして哲学だったかもしれぬ林檎が裂かれジュースにされた

松 岡 拓 司 @senbeiguy

## 雨降る夜のバスは寂しい

耐えるように乗客みんなうなだれて雨降る夜のバスは寂しい  
真つ暗な巨大水槽見るように窓ガラス越しに世界を覗く  
ふらふらと赤青黒の傘が行くドラッグストアの集魚灯へと  
ぬれた道街の灯りを吸い込んでまどろむようなブルーに染まる  
トンツートン・トンツァー・トントントン・ツートンと窓に散らばる雨の信号  
雨の日は言葉でさえも流される沈没船のように静かだ

薄荷。 @aieohimeco

## CLOSE TO THE EDGE

卵巣の左右にありてたまきはるサーカス乙女わたりゆく綱  
水泳のパンツに消えるおちんちんどこへ落としたプール水色  
海のへりはみだすものを岸の辺と呼ぶはくぬがの驕りなりけり  
つゆけきはボブラ並木のあまぐもへあいさつおくるやまたかぼうし  
窓の雨みつめる子ネコ箱ずわりあすはとなりのミケとあうんだ  
しずかさや養老院を消えるひと神の落ち葉を焚きしものから

笛地静恵 @mundburg

## 晴れのち台風

それなりに思い出はあり玄関のビニール傘をヨドバシと呼ぶ  
もう止んでいるのに傘をさしていた（これが一人ということなんだ）  
無意識に淹れたコーヒーが二杯あり君の好みの苦さを飲み込む  
そちらでは降ってたんだね泣いているように滲んだ水性の文字  
颯爽と歩く私を茶化すよう昨日の雨がつむじに落ちる  
天気図の操作が苦手なキャスターのせいで明日は晴れのち台風

倉橋千帆 @chiko\_kurahashi

## 見たことのある雨

とつとつと京都の梅雨を語るのに雨がぜんぜん登場しない  
物売りの声をおいかけ夕闇の路地の暗渠にきえた子どもの子  
雨の日の空港が好き水しぶきひいて飛びたつ旅客機の孤独  
傘をもち迎えに来たのに雨の日が第一志望と言ってくれない  
台風がちかづく朝の駐機場に尾翼あつまり空を支ささえる  
ゆく秋の雨はしずんで調査師の遺書のかおりに記憶とどめて

河野瑤 @kono\_yo\_tanka

## めぐる

傘を開くたびに過ってくださるよう狡い名前を自分に付けたの  
海鳴りを身体に収め生きている月が呼ぶから仕方ないのだ  
人は皆睦月の水を飲んで去る吾の名前を口にせよ雨  
（近づけば良かった）拳一つ分の馬鈴薯を煮る多分淋しい  
午後はもう眠るのでしょうストローをヨーグルファームに突き刺せば雨  
汗ひとつかかずに微笑む人が居るあなたに会いに来ましたここに

文車雨 @ganymede102

## 金魚

水槽の水はいつでも透明で塩素を抜いた水道の水  
快適な部屋を与え飼ひ慣らす金魚の水はいつも綺麗で  
外に出し触れてはダメよ傷つくのの水の外では死んじゃう魚  
ゆらひらと腰を揺らして反り泳ぐ透明な水真つ赤なスカート  
こぶかぶとあぶくの粒を浮かべては真つ赤なおべべの金魚が笑う  
動いたら揺れる流れを気にせずに金魚は今日も自由に泳ぐ

藤田 光 @bounouta

## 排水

草原に仰いで雲をみおくれればまた雲のくるように頻尿  
先客の戦績ばかり気になって 的のマークのある小便器  
双子のように分かれてしまっておしこの未来永劫交わらぬまま  
排水が雫に変わるころ気づくTOILETのうしろのTの軽さに  
街よ海よ空よ宇宙よたつたいまわたしの水が水に流れた  
小用といえどたつたむ時すべてロスタイムにならずにただ過ぎて

御殿山みなみ @lookat2

## 九月の背泳ぎ

背泳ぎはしずかに進め風を聴く今年最後の水泳授業  
背泳ぎが好き おひさまに向きあつて進んでいける秋風が吹く  
ざらざらの底につくまで仰向けで潜る ひかりの網にからまる  
夏よりも空が高くて思い切り吹いてみたいの長いホイッスル  
一時間目が水泳の教室は椅子と机もあわてたかたち  
教室に水のおいはのぼり来て二年一組落ち着きがない

西藤智 @hionosulab

## 糸を売る街

毛穴から水菓子みづあじの匂いさせねむるきみは季節のように正しい  
何度目の転生なのか数えていた熱めのシャワー背びれにあてて  
しあわせが揮発性ならとびきりの水着で行くわ、モヒートの海  
蜜というきみシロップというわたし水はすでに気化して碧い  
雨だれを聞きたび瞼に浮かぶ街ベルシャンブルーの糸を売る街  
舌先に朝つゆ苦しべランダで真夏は「とうげんきょう」って笑う

櫻井 朋子 @Tomoko\_S0212

## 君の雨

煽るだけ煽られてゐるはつ夏の一日帰路へと刺さる夕影  
唯一の苗字と思へば君の云ふこともえスコールが来て聞こえない  
水無月の終はりに君と会ふ。鳶の多き窓辺をとりあへず刈る  
水を遣る草木の名をさういへば知らず思つてゐる夏のこと  
キーボードひらひら叩きつつ雨にかきけされしその言葉のすべて  
思ひ付く限り愛されしこの指が粉末スープに湯をぶちまける

笹谷 香菜 @sstkn

## 少なめの氷

穏やかに暮らしませんか少なめの氷にアイステイーを注いで  
健やかなとき病めるときその間氷あわいに透ける濃淡を見る  
「今のつてけんか?」「違うよ」透明な氷のぶつかる音は高くて  
意地悪になる瞬間のように氷がもたらす痛みを許す  
あなたなら水をどんな色で描くわたしはそれを未来と呼ぼう  
ダイヤって燃えるんでしょうグラスには溶けた氷の輝きがある

榎原 もか @kharaneko

## デン リレ ハウフウ

時期尚早? (Take it soso) はじけりゃ Yea! みたいな夜に溺れる二人  
声紋が水紋でした口パクできみの水面に「好き」と伝える  
この足で生きていくことはろーふぁんとむべいん。はろーふぁんとむうえつと  
思いきりフラれてしまい泡になるアンデルセンの三ツ矢サイダー  
王子さま、ナイフのKはキルじゃなくキスのKだよ忘れないでね  
潮風と涙の成分は同じ。だいじょうぶ、これは嬉し泣き。

西 淳子 @Jacky244Ray

## 街にも海が

自転車自転車のしきりに過ぎる水たまりに映ればなんて清らかなポスト  
思ひ切るために大きく吸つたのにグラスの底で執着が鳴る  
水色がみづのいろではないことを受け容れながら母語を紡ぐむ  
葱の香が油の熱に放たれて話すなら今だ泣きさうなんだ  
東西に街をつらぬくメトロこそ星の青さのひとつと思ふ  
星の声が届かない夜 白地図の街にも海があふれてゐるよ

志 稲 祐 子 @yuko\_stina

## 水曜日のルール

さがせさがせ月曜日でみづうみのように輝くみどりのシャベル  
火曜日はごみ出しの日だ忘れずに大きくなった水母を捨てる  
雨がふったら行つてもいいよ火曜日へ 帰り道アト道をおぼえておくこと  
雨の中で花に水をやる人を見た春の野が森か動物園で  
フライデー、出かけるときは絶対に (Danger: Will Robinson) 合言葉あや言葉をわすれないこと  
週末のひみつの予定みづうみをつくるの砂浜の砂を掘り

雀 来 豆 @jackbeans2

## 零

球面として満ちている海のようにおさまっている君の腕うでに  
全員で踏まれた数を告げあつて海辺の砂は夏をよろこぶ  
これは水 少ななものにもなれる水 君のからだを通過した水  
遠ざかる大きな傘にいつまでも守られていてくださいね。秋  
落ちるまでは飛んでいるのか横なぎの水の行く手をさえぎる身体  
水の重さ水の温度に触れるときいつか自由になりますように

榛 瑞穂 @maimatsuburo

## さかのばって還る

風いでいる音は微かに耳すまし波はどこかで歌っているよと  
海の中泳ぐ魚は生きたいとここにいたいと体を揺らす  
石ころを投げて落ちてく川の中流れにまかせ削られる石  
菜園にホースで水のあげましよう大きな野菜食べれるように  
雨は降る雨に打たれて涙雨雨はふるふる震える肩に  
雨は舞い流れていくよ水分子川は運んで海に還ろう

橋 本 哲 也 @hasimotetsuy2



## 水溶性のマーメイド

溶けてゆくマリンブルーのバスソルトここが涙の帰る場所です  
あ、痛い 君の横顔想うのはナイフみたいでクセになるんだ  
恋はさざ波にさらわれ幸せな王子様にはもう届かない  
エメラルド色の尾びれが欲しかった そしたら君を諦められる  
水中はため息ですらきらめいて地上で生きていくのいやだな  
うたかたと呼ばば聞こえはいけれど消えるよ、あたし、水溶性の

中條 茜 @nakajoakane

## 森に降る

水溶性なのかもしれない雨が降るたびにあなたはうまれかわって  
とうめいな感情を手にとりだせば私たちの背の翹がふるえる  
水月のわたしの耳朶は窓越しのうすい雨声をいつまでも聴く  
ねえ雨が止まないねって細長い指がわたしに触れる 右耳  
わたしからわたしがいなくなることもこわくはないよ雨降りやまず  
雨のおと魚のこえを聴きわけて水のきれいな森に棲みたい

永田 愛 @Nagataicchi

## トーザイライン

自販機へ天然水を買に行く朝五時頃がいちばんきれい  
整列をしそうになって避けているその通勤に入れないでくれ  
動脈と呼ばれる路線に乗りまして戻ることなど考えてない  
地下鉄は浮輪マークでぼくたちがウォーターチューブを通り抜けてく  
水水水水水と人人人 どっちに入れば帰れるだろう  
天からは梯子がのびてこの手なら水のボトルで塞がっている

スコラブ @scope\_scape

## プラトニックレイン

友達にいないフォローでも僕は熱い雨より人が好きだよ  
この木々に桜が咲いていたことも忘れ短く雨やどりする  
黒髪は僕らが起こすおしまいの海辺の風で煽る、乱れる  
夏・近視・心变わりのせいにして中央道の上に雨雲  
もう消した写真の海が見たくなる君ではなくて海を 夏空  
明日からは水の星座のひとつと会う過去より未来が好きならして

たえなかず @suzusuzu2009

## child's play

ささくれをひとつ引き抜き肉色へ垂らすシングルモルトの遊び  
六レーンプールいっぱいテキーラを棒で突ついて潜水遊び  
屋上にジョッキ掲げる下々へおっとりとした笑む姫なの遊び  
百円玉と踵どっちが馬乳酒の味に近いからそう遊び  
水風呂へグラスを浮かべ差し向かいワインどこまで注げる遊び  
究極カクテル(撃墜王)でやり合って遊びが遊びでなくなる遊び

中村 成志 @nakam8

## 甘いフリーレイン

雨が降る震える月を隠して行くすぶっている過去に首振る  
夜に降る雨は等しく間違いはないよとささやくだから好きです  
落ちていく無数の雫を拾えずにドロップドロップ波紋ひびいて  
雨音のリズムに合わせて届きたい言葉をちいさく繰り返している  
舞い降りた君は透明まばたきのたびに色づく淡くたしかに  
甘い雨甘い言葉に酔わされて今夜奇跡を起こそう君に

なぎさらさ @spice16g

## 音のない雨

この雨は俄雨だと思いたい雨宿りする場所も見えない  
野良猫は濡れない場所を知っていていつもの場所にお前はいない  
乾いているからこそ染みていくんだら雨も言葉も優しく痛く  
月明かり遮る雲の真下にはひかりを探すものが溢れて  
傘がない傘がないから濡れている傘がないから傘がないから  
雨の中歩けばぼくは探してたあなたを見つけられるでしょうか

高木 一由 @ka\_to\_ka\_zu

## 明日香川

水たまり あなたの顔を映してたあの初夏の輝きはどこ  
山川に霞立つなど見たこともなくて私の都会は時雨  
ひとつぶの昨日生まれた恋心明日川になる うねりうねりて  
裏切りを恨んで川は流れてもいつか海には出られるだろう  
救済はきつと天から降ってくると信じていたのに長雨六日  
秋草の水やりも済み一休み 夏の終わりの蛇口を閉める

多香子

## 平成最後のみずつきですね

皮を剥く指先に染みてゆく果汁平成最後の六月ですね  
スカートとスプリングラー。素晴らしく素敵だ。素直に好きと言えたら。  
わたし昔ぐちゅぐちゅうがいが下手だったペパーミントの味がするキス  
どんぶらこ、湯船で毎晩桃になるあなたをそつと抱く 何度でも  
いつだって蛇口をひねれば水が出る平和を当たり前と思わない  
一本の炭酸水を分けあって平成最後の夏が始まる

たかはしりおこ @nashkr

## この気持ちは水洗トイレに流せます

ひとまえてなくのはいやだ この駅の中には個室トイレが六つ  
ドアを閉める 鍵をかける 蓋はもう開かれていて ないてしまえる  
エアコンの音が響いてくるけれど暑いし寒いまつしろなへや  
水流に崩れてしまう気持ちならトイレに流しても大丈夫  
手を洗う ジェットタオルに手を入れる 水滴は手に尾を引いていく  
この頬に尾を引いていた水滴が染み込んでいるティッシュを捨て

田村穂隆 @Da\_Ho\_Ra

## 水蜜の桃

繰り返すことしかできない過ちのようにあなたに逢ってしまふ  
手に取ってもらえないなら青いうち落としてください水蜜の桃  
朝焼けは決してふたりのためではなく例えばシーツのタグを照らして  
多ければ多いほどいい嘘なんて砂丘に撒いた一握の砂  
書いてない言葉を探してしまうから手紙の余白に描いてウォーリー  
これからを君とふたりで歩むため足跡を消せ掃除機ルンバ

chari @greenchari2

## 洗い、流す。

この雨も上がる事実に気付くとき手放したくない感情がある  
ただ立っていたわけじゃない真剣に待ってた 一秒 一分 一夜  
絶対に泣けない時のマスカラがラメ入りなのはそういうことだ  
守れない約束ばかりこしらえて優しい人は上手に消えた  
こうやって忘れていけばいいんだね漂白剤と戯れる服  
まだいいって言っていないのに背中押す手はなんですかこれが恋ですか

月本ゆみ @yumi28282828

## あまだるい温度

雨だれが首すじ優しくなめるからきみの理性よそろそろ負けて  
禁断の果実にするには甘すぎる林檎のようなきみをひと齧  
ゆっくりとビーチサンダル脱いでゆく火傷をしてもいいかなと思っ  
なめらかな君の素肌のような白 和蠟燭のフォルムを見てる  
ど近視の眼鏡をゆっくりはずされてもうあなたしか見えない私  
三十七度の温度に開かれる身体をすべてゆだねてもいい

知己 凜 @Chikori7

## 濡れたあじさい

硝子一枚向こうは海だ真つ青な世界で覚えたての名を呼ぶ  
黄信号だとわかったこのひとの飛び込めば深すぎる湖  
液状化した心臓を貫かれ抑えても浸出する恋だ  
はなのいろは移るばかりで冷淡なあなたにあげる濡れたあじさい  
あたたかな劣等感だけ抱きしめて体育座りする海の底  
真夜中のタイムラインは深海でわたしは泡を吐くだけの貝

千原こはね @kohagi\_tw

## ちいさな家

腹いっぱい水飲みほして君は今ちいさな家としてそこに立つ  
何度でもおんじことを云わせば肩紐として肌に張りつく  
東京のすきますきまへ流れこむ雨は僕らの群衆として  
きみが子を産むのであればあしたからきみ、傘をさしめぐる湖  
スミレほどなちいさき夫婦は公園のヒマラヤスギのなかで交わる  
ダム底ににんげんばかりの国があるならば紅茶にひとさじの砂糖を

土井礼一郎 @relichiro\_murr

## 炭酸の気泡、あるいは

炭酸の気泡 あるいは一斉に放たれる5月の徒競走  
水風船投げあったみたいな跡がいくつもあれば公園だろう  
落ちていた花びらにふたたび出会う思いの濡れ方をし  
差す人と差さない人がいる列は週間予報に少し似ていた  
感情は法定速度を守りつつ雨たんたんとはじくワイパー  
正解のメロンソーダがある場所へ歩いていけば額から夏

橙田千尋 @komekokakari